

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29154 プログラム名 和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！～和漢薬体験してみよう～



開催日：平成29年8月5日(土)
実施機関：富山大学
(実施場所) 和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館
実施代表者：小松かつ子
(所属・職名) 和漢医薬学総合研究所・教授
受講生：中学生17名、高校生4名
関連URL：<http://www.inm.u-toyama.ac.jp/mmmw/index-j.html>

【実施内容】

【工夫した点】

和漢薬を身近に感じてもらうために、目や耳にした事のある植物や普段の食事の中に使われている食物などを多く採り上げた。また、記憶に残りやすいプログラムとなるように、視覚、味覚、嗅覚など、五感をフルに使った体験実習を多く取り入れた。さらに、受講生が抱く「大学」や「和漢薬」に対する距離感を縮めるために、医学・薬学部生を実施協力者(スタッフの一員)として配置し、ランチオンやグループ学習中に受講生と交流する機会を設けた。

漢方薬に配合される生薬の鑑定実習では、スタッフが受講生2～3人に一人付き、きめ細かく声をかけたため、受講生が質問をしやすい雰囲気を作ることができた。

当日、野外での薬用植物の観察を予定していたが、炎天下での観察は危険と考えて、あらかじめ薬用植物栽培機関に依頼し準備していた植物の鉢植えを教室内で観察することとしたので、快適に観察が行えたものと思われる。

薬草ブレンドティー作りでは、まず単品で9種類を試飲させ、次に各自のイメージでそれぞれをブレンドさせた。初めての試みであったが、スタッフによる薬草の解説やアドバイスを頼りに個人個人でおいしいと思う薬草の煎液を混ぜてオリジナルブレンドを完成させた。受講生の独創性・想造性を発揮する実習であり、大変好評であった。また、受講生同士や、実施者との交流が活発になった。

【当日のスケジュール】

時間	内容
9:30～10:00	受付
10:00～10:30	開講式とオリエンテーション
10:30～11:00	① 講義「世界の伝統医学の紹介と使用される生薬」
11:15～12:00	② 実習「民族薬物資料館 展示室見学」
12:00～13:00	昼食休憩(薬膳弁当)
13:00～13:45	③ 実習「桂枝湯と葛根湯の選別・鑑定」
14:00～14:45	④ 実習「薬用植物の観察」
15:00～15:45	⑤ 実習「薬草ハーブティー作り」と「お香体験」
16:00～16:30	学習の振り返り&発表、修了式
16:30	終了・解散



開講式とオリエンテーション



①講義「世界の伝統医学の紹介と使用される生薬」
伝統医学の歴史や、日本やその他の国の伝統薬について、
用途や成分などの話を聞きました



②実習「民族薬物資料館 展示室見学」
所蔵標本数日本一の生薬博物館で、色々な生薬を
見て、触れて、香りを確かめながら見学しました



昼食 薬膳弁当
普段食べている食材にはそれぞれ食味・食性があることを
知り、自分に合った食事を心がけます



③実習「桂枝湯と葛根湯の選別・鑑定」
漢方の基本方剤である「桂枝湯」に配合されている
生薬の香りや味、形を比べて鑑別しました



④実習「薬用植物の観察」
桂枝湯に配合される生薬の原植物を実際に見て
植物分類の要点を勉強しました



⑤実習「薬草ハーブティー作り」と「お香体験」
9種類の薬草の煎液をまずは単品で試飲、
次に自分の味覚を信じてブレンドティーを作ってみました



修了式

【事務局との協力体制】

- ・富山大学研究振興部研究振興課が、広報手段の提案、日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正を行った。
- ・医薬系事務部研究協力課が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。また、当日の運営にも協力した。
- ・総務部広報課がニュースリリースによって県内の報道機関に情報提供した。また、大学のホームページのイベント情報で本事業について掲載した。

【広報活動】

- ・実施者(代表者、分担者)が富山県庁、富山市教育委員会を訪問し、本事業についてPRするとともに、ポスターの掲示を依頼した。
- ・県内15市町村教育委員会に依頼し、県内すべての中学校にポスターとチラシの配布を行った。高等学校には直接郵送した。その他、県内の図書館など、公共施設にポスターを郵送し、掲示を依頼した。
- ・学内電子掲示板に本事業の募集案内とポスターを掲載した。
- ・大学附属病院内の掲示版にポスターを掲示し、チラシを配布した。

【安全配慮】

- ・受講生の食物アレルギーに関する実態を把握するため、事前に食物アレルギー調査票を記入していただき、必要に応じて昼食を一部アレンジした。また、生薬鑑定や薬草ブレンドティー作りの際にもアレルギーが起こり得るものは口にしないようにスタッフ(実施協力者を含む)間で何度も確認を行った。
- ・生薬鑑定以降の実習では受講生を3グループに分けて、それぞれのグループに実施者と協力者を配置し、事故の起こらないように配慮した。
- ・薬草ブレンドティー作りは実施協力者ととも予備実習を行い、器具の取扱いや煎じ方について確認した。
- ・受講生を短期の傷害保険に加入させた。

【今後の発展性、課題】

- ・準備に経費と時間がかかりすぎるため、今後継続的な物品の使用、実施協力者のノウハウの受け渡しなど、実施マニュアルを作る必要がある。
- ・広報活動に時間と労力がかかるため、同様の事業を行う本学の他の部局との相互連携の必要性がある。

【実施分担者】

出口 鳴美 和漢医薬学総合研究所・技能補佐員

【実施協力者】 7 名

【事務担当者】

女川 佑可子 医薬系事務部 研究協力課・係長